

データの互換性  
相互接続性の向上  
システム共通基盤

## 3. 成果のまとめ

### 3. 成果、目標の達成度

レベル4の相互運用性が必要な診療情報の基本データセットを整備し、関連部門システムの相互接続性を達成した

要素技術	目標・指標	成果	達成度
データの互換性	電子カルテの基本データセットの開発と標準マスターの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子カルテの基本的項目を精査し、基本データセットとして整備し、データ移行の実証実験を行った。</li> <li>標準マスターの利用を促進するためのツールを開発した。</li> </ul>	一部を除き達成
相互接続性の向上	基本的な部門システムの接続性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>IHEの手法を適用し、放射線部門の臨床情報システムをマルチベンダで構築する実証を行った。</li> <li>IHE手法の適用拡大を図ると同時に、相互接続性の検証手法を確立した。</li> </ul>	一部を除き達成
システム共通基盤	統合的医療情報システムのセキュリティ要件の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>監査証跡の運用ガイドラインの作成</li> <li>真正性保証への認証基盤の実証検討</li> </ul>	一部を除き達成

注)「達成度」の欄には、達成、一部達成、未達成を選択して記載。

### 3. 成果、目標の達成度

#### 情報収集と事業へのフィードバック、普及阻害要因の低減

要素技術	目標・指標	成果	達成度
調査事業	世界各国の相互運用性確保の取り組みを調査し、今後の方向づけの参考とする	・国際標準化への対応状況を調査し、事業の方向付けを行った。	達成
普及促進	適切な医療情報システム導入を行える人材育成 医療情報システム導入時の仕様書作成の支援	・E-Learning教材として「マルチベンダー型病院統合情報システム導入指導者育成カリキュラム」を開発した。 ・導入時に必要な仕様を検討し、ガイドライン「相互運用性を確保した医療情報システム導入ガイド」として成文化した。	達成 達成

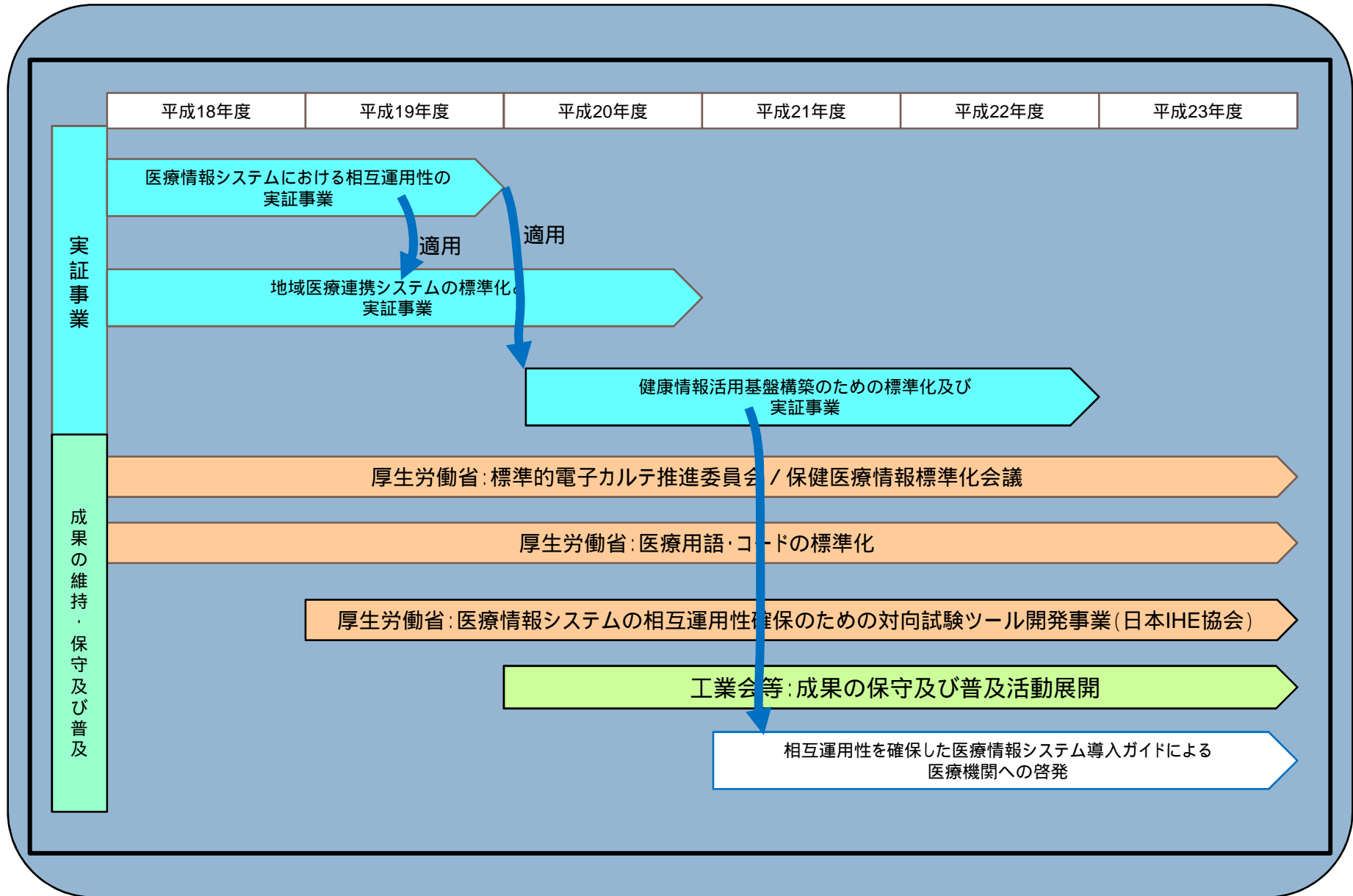
注)「達成度」の欄には、達成、一部達成、未達成を選択して記載。

IHEの手法の適用

臨床ワークフローの定義と標準規格の適用、その適合性の検証

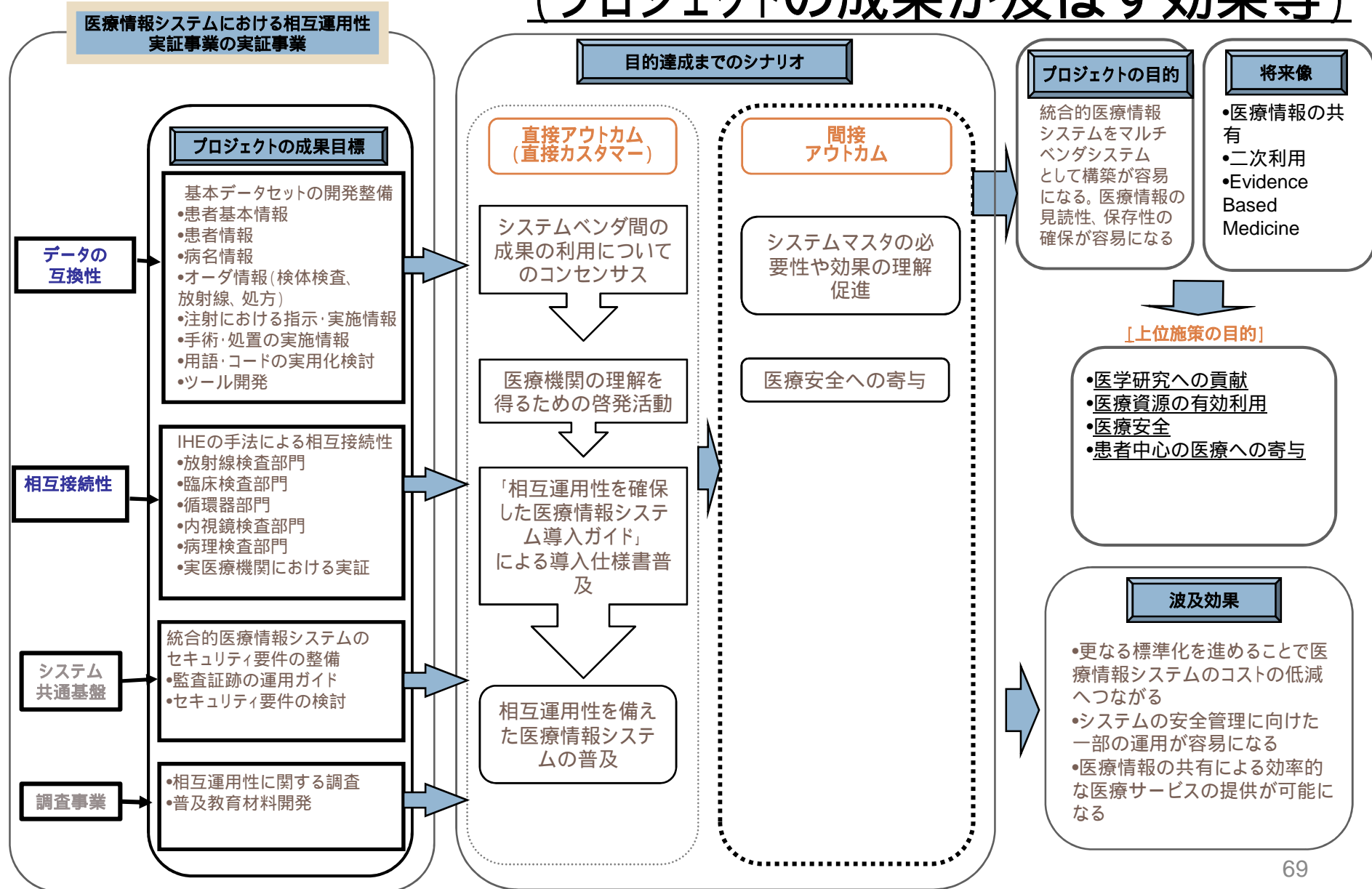
## 4. 事業化、波及効果

# 4. 事業化、波及効果



# 4. プロジェクトのアウトカム

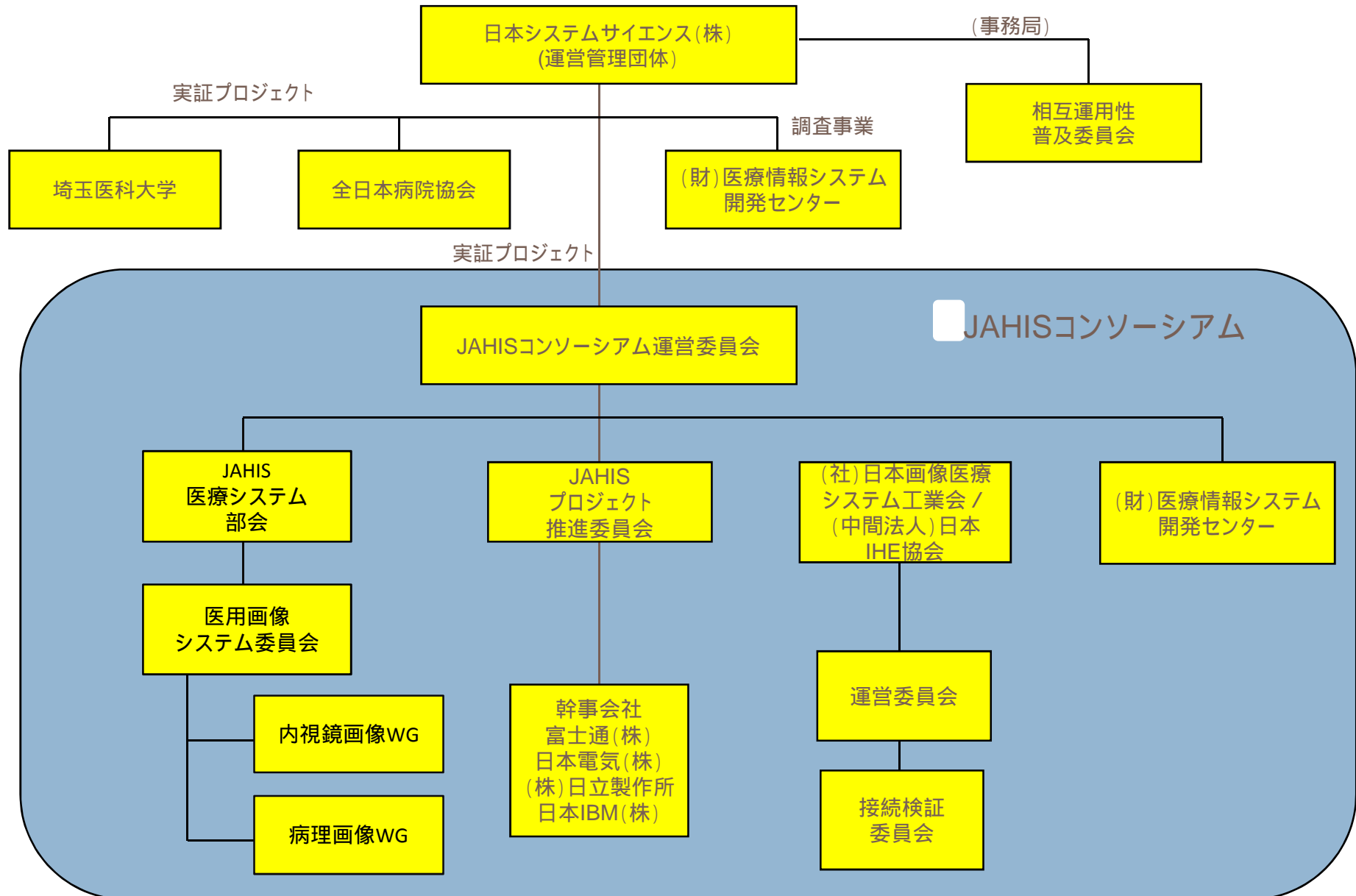
## (プロジェクトの成果が及ぼす効果等)



研究開発計画  
実施体制・運営  
資金配分、費用対効果、  
変化への対応

## 5. 研究開発マネジメント・体制等

# 5. 研究開発マネジメント・体制等





相互運用性の実証

## 6. まとめ

## 6. まとめ

- 最も高い相互運用性が必要とされる診療情報については、主たる部分についてその情報項目の定義を行い、標準規格による情報交換の基本を整備、確認する手法を確立できた
- 用語・コード普及のための課題を整理した
- IHE手法の実用性の検証ができた
- 標準規格の適用においてツールの有効性は確認できた
- 標準規格の適用によるマルチベンダーシステム化への取組は、今後も継続的に続ける必要がある
- 標準マスターの必要性とその効果は実証できたが、実用的なマスターの開発は今後の課題